

# 人材養成の目的 3つの方針

入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)／教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)／学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

## 健康栄養学科

### 入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

建学の精神「尊敬」「責任」「自由」に立脚し、期待される社会人になれるよう人間性を育み、知性および感性の向上を目指すと共に、健康で豊かな生活を営むことができる人間の育成をはかることを教育の目的としています。また、栄養士課程とフードスペシャリスト課程をもうけ、食と栄養に関する豊かな知識と確かな技術を通して、これからの社会に貢献できる栄養士とフードスペシャリストを養成することを目標としています。

#### ●求める学生像

- ① 食と栄養の専門家を目指して自ら進んで学ぶ意欲を持っている人
- ② 短大で学ぶ教養と専門の教科を理解するための基礎能力のある人
- ③ コミュニケーション能力があり、サービスの精神が理解できる人

#### ●入学希望者評価の方法

評価の方法には、調査書、面接、学力試験、基礎能力調査、国語・数学基礎力検査、志望の動機、卒業後の希望などがあり、以下の入学者選抜方法ごとに多面的・総合的に評価します。

AO生	調査書約33%、面接約33%、 国語・数学基礎力検査約33%
指定校推薦生	調査書約33%、面接約33%、基礎能力調査約33%
公募推薦生	調査書約33%、面接約33%、基礎能力調査約33%
専門学科・ 総合学科推薦生	調査書約33%、面接約33%、基礎能力調査約33%
高大連携生	調査書50%、面接50%
特待生	調査書約33%、面接約33%、基礎能力調査約33%
社会人・特別	面接50%、基礎能力調査50%*
一般生	調査書約33%、面接約33%、学力試験約33%

※志望の動機や卒業後の希望の評価は、面接又は調査書の評価に含まれます。  
★高等専門学校生・専修学校高等課程生の配点は、調査書約33%、面接約33%、基礎能力調査約33%となります。

### 教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)

健康栄養学科は、食と栄養に関する専門知識と実践力からなる専門性を発揮して、健康で豊かな生活を営むことができる人間の育成を進めています。この教育目的を果たすため、社会の期待に応える栄養士とフードスペシャリストの養成を教育目標とします。このため、次のカリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)により、「単位の実質化」に配慮して入学から卒業まで効果的な学修が行えるようカリキュラムを編成しています。

1. 建学の精神と専門科目の理解に必要な共通基礎科目、食と栄養に関する基本的な専門科目を卒業必修科目として開講します。
2. 建学の精神に基づく人格形成と専門の探求のための科目を選択科目として開講します。
3. 栄養士とフードスペシャリストの養成を目標に栄養士課程とフードスペシャリスト課程を設け、必要な科目をそれぞれの課程の必修科目として開講します。
4. 栄養士課程の必修科目で栄養士業務の実務を学ぶ給食論実習Ⅲ(校外実習)には履修要件を設けて、履修する学生のレベルを対外的に保証します。
5. 高等学校までの復習を含む基礎的科目として、基礎自然科学、自然科学(生物)、自然科学(化学)を1年次に必修科目として開講します。

6. 基本的な科目から応用的な科目へと系統的に学べるように開講時期を配置します。
7. 卒業学年の12月に実施されるフードスペシャリスト資格認定試験と栄養士実力認定試験に対応できるよう開講時期を調整します。

### 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

学科の目的に鑑み、本学所定の単位を修得し、次の成果が得られた学生に卒業を認定し、短期大学士(家政学)の学位を授与します。

1. 食と健康の関わりについて科学的に理解する能力を修得している。
2. 健康的な食生活を実践するための基本的技術が身につけている。
3. 食と栄養の専門性を発揮して、サービスの精神に基づいて社会に貢献する素養が身につけている。
4. 論理的思考と倫理観によって、食と栄養に関わる諸問題に対処する能力を修得している。

## 幼児教育学科

### 入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

建学の精神である「尊敬」「責任」「自由」を基に、豊かな人間性を備えた保育者の育成を目指します。

幼児教育学科では、幼稚園教諭と保育士の養成を目的とし、そのために幅広い専門知識と技術を身につけた人物を育成します。

#### ●求める学生像

- ① 子どもを心から愛し、子どもの心に寄り添える人
- ② 保育への関心が高く、研究心旺盛な人
- ③ 目標を高く持ち、努力を惜しまない人
- ④ 自己の欠点を是正し、他者をも大切にできる人
- ⑤ 明るく、笑顔のすてきな人
- ⑥ チャイルド・ミュージックコースに於いては、更に音楽的経験のある人

#### ●入学希望者評価の方法

評価の方法には、調査書、面接、面接内実技、音楽経験度調査、学力試験、基礎能力調査、志望の動機、卒業後の希望などがあり、以下の入学者選抜方法ごとに多面的・総合的に評価します。

#### 〈幼児教育コース〉

AO生	調査書約17%、面接50%、小論文約33%
指定校推薦生	調査書約33%、面接約33%、基礎能力調査約33%
公募推薦生	調査書約33%、面接約33%、基礎能力調査約33%
専門学科・ 総合学科推薦生	調査書約17%、面接50%、基礎能力調査約33%
高大連携生	調査書50%、面接50%
特待生	調査書約33%、面接約33%、基礎能力調査約33%
社会人・特別	面接50%、基礎能力調査50%*
一般生	調査書約33%、面接約33%、学力試験約33%

※志望の動機や卒業後の希望の評価は、面接又は調査書の評価に含まれます。  
★高等専門学校生・専修学校高等課程生の配点は、調査書約33%、面接約33%、基礎能力調査約33%となります。

学園が  
求めるもの

- 「真」の本質を見きわめ、追求しようとする人
- 健全な意志を持って「善」へ邁進する人
- 盛んな研究心と努力で「美」を探求する人
- 「聖」を敬愛して社会への奉仕の意義を知る人

## 〈入学者選抜の実施方針〉

本学は、学力を構成する重要な要素(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体性・多様性・協働性」)を踏まえた多面的・総合的に評価する入学者選抜を実施します。

### 〈チャイルド・ミュージックコース〉

AO生	調査書約13%、面接約38%、小論文25%、音楽経験度調査25%
指定校推薦生	調査書25%、面接25%、基礎能力調査25%、音楽経験度調査25%
公募推薦生	調査書25%、面接25%、基礎能力調査25%、音楽経験度調査25%
専門学科・総合学科推薦生	調査書約13%、面接約38%、基礎能力調査25%、音楽経験度調査25%
高大連携生	調査書約50%、面接約50%
特待生	調査書25%、面接25%、基礎能力調査25%、音楽経験度調査25%
社会人・特別	調査書約33%、面接約33%、音楽経験度調査約33%*
一般生	調査書25%、面接25%、基礎能力調査25%、音楽経験度調査25%

※志望の動機や卒業後の希望の評価は、面接又は調査書の評価に含まれます。  
★高等専門学校生・専修学校高等課程生の配点は、調査書25%、面接25%、基礎能力調査25%、音楽経験度調査25%となります。

### 教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)

教育・保育に関する専門知識と技術、幅広い教養を身につけた保育者を養成するため、以下のような方針に基づきカリキュラムを編成しています。

1. 教育・保育の本質を理解し、内容・方法を学ぶ科目を設けます。
2. 子どもの発達(心理的・身体的)を深く理解し、支援について学ぶ科目を設けます。
3. 保育の表現技術を身につけるための科目を設けます。チャイルド・ミュージックコースにおいては、この内容を更に強化します。
4. 保育を総合的に計画・実践するための科目を設けます。
5. 学修した知識や技術を統合し、問題を解決する能力を育成するために「卒業研究」を必修とします。チャイルド・ミュージックコースにおいては、全員ミュージカルを選択します。

### 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

幼児教育学科所定の単位を修得し、以下の知識・能力を身につけた学生に対して卒業を認定し、短期大学士(教育学)の学位を授与します。

1. 教育・保育の本質を理解している。
2. 保育内容を理解し、保育を総合的に計画し実践できる。
3. 子どもの発達(心理的・身体的)を理解し、子どもを支援することができる。
4. 保育を実践するための方法や技術を身につけている。
5. 感性豊かな表現力とコミュニケーション能力を身につけている。
6. 学修した知識や技術を統合し、問題を解決する能力が育っている。
7. 幅広い教養と豊かな人間性や規範意識を身につけている。
8. チャイルド・ミュージックコースにおいては、更に一定水準以上の音楽表現が身に付いている。

## 地域創成学科

### 入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

建学の精神である「尊敬」「責任」「自由」を基に、地域文化の新しい価値を創造する人物の育成を目指します。

地域連携教育を中心とした多様な学びにより創造力や表現力、コミュニケーション能力を伸ばし、地域の発展に取り組む力を身につけます。また、図書館司書、博物館学芸員補、デザイナー、イベントスタッフ、一般事務など、多様な専門分野を複合的に学ぶことで、社会貢献の目的意識に合った能力を持つ人物を育成します。

### ● 求める学生像

- ① 目標に向かって、着実な努力を継続して行える人
- ② 地域社会の一員として、自己の能力と個性を活かし、人や社会に貢献する意識を持つ人
- ③ 幅広い関心を持ち、物事を多面的に捉えようとする人
- ④ 人と地域のつながりを大切に、学んだことを地域に発信できる人

### ● 入学希望者評価の方法

評価の方法には、調査書、面接、プレゼンテーション(小論文または美術作品の制作に関する説明)、基礎能力調査(国語または小論文またはデッサン)、学力試験(国語)があり、以下の入学者選抜方法ごとに多面的・総合的に評価します。

AO生	調査書約17%、面接約17%、小論文(または制作した作品)約33%、プレゼンテーション約33%
指定校推薦生	調査書約33%、面接約33%、基礎能力調査約33%
公募推薦生	調査書約33%、面接約33%、基礎能力調査約33%
専門学科・総合学科推薦生	調査書約33%、面接33%、基礎能力調査約33%
高大連携生	調査書50%、面接50%
特待生	調査書約33%、面接約33%、基礎能力調査約33%
社会人・特別	面接50%、基礎能力調査50%*
一般生	調査書約33%、面接約33%、学力試験約33%

★高等専門学校生・専修学校高等課程生の配点は、調査書約33%、面接約33%、基礎能力調査約33%となります。

### 教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)

文化、歴史、芸術、情報などの専門の学修を通して、継続的に社会貢献ができる総合的な人間力を持つ人材の育成を目的とします。そのために、地域社会活動など運動した実践教育(アクティブラーニング)を行うことで文化施設や地域社会で活躍することができるよう、以下の項目を編成し設置します。

1. 1年に入門、概論の専門教育科目を置き、2年より専門性に特化した専門教育科目を編成します。
2. 「地域創成ゼミナール」「地域創成プロジェクト演習」科目を開設することで、地域社会の創成に力を発揮できる人材を輩出することを目指します。
3. 二年間の集大成として「卒業研究」などの科目において、自ら問題意識を持って学びを追究することができる分析力を身につけます。
4. 資格取得に必要な科目の多くは卒業要件の科目としても認められ、効率の良い履修が可能となり、多様な資格と知識・技能の習得を目指すカリキュラム編成とします。
5. 司書および学芸員補の資格取得に必要な科目を開講し、幅広い教養を学修するための専門的な教育プログラムを実施し、知識の形成を目指します。
6. 情報処理士の資格取得に必要な科目を開講し、社会生活に不可欠な情報活用能力を育成して企業人の基礎力として求められているITスキルを身につけます。
7. 社会福祉主事(任用資格)の資格取得に必要な科目を開講し、ボランティア活動等を通して、専門知識と共に実践的な技能の育成を目指します。
8. 芸術と人間社会における諸問題を総合的に捉え、新しい視覚文化に対応できる教育を実施します。

### 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

建学の精神に基づく教育目的に従い、以下に掲げる知識や資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に対し短期大学士(地域創成)の学位を授与します。

1. 身近な生活圏の歴史や文化を理解し、専門教育の実習を通して地域社会に貢献できる力を身につけている。
2. 柔軟で応用力のある創造的思考力を身につけている。
3. 地域社会において円滑に対応できるコミュニケーション力を活かしながら、現代社会の多様な課題を自らの力で発見し、それらを分析し解決する能力を身につけている。
4. 専門的知識を活用し、論理的に課題を探求し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力を身につけている。

## 音楽科

### 入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

ピアニストへ、声楽家へ、管弦楽奏者へ、音楽教室講師へ、音楽療法士へ、道が広がります。  
人間生活に必要な音楽の世界を感性豊かに学びます。

音楽は、人生を豊かにし、生活を潤いのあるものにします。音楽科は建学の精神である「尊敬」「責任」「自由」を基盤とし、社会において音楽芸術の発展に貢献できる人材、及び音楽療法士として医療福祉分野で活躍できる人材の育成を目的としています。

### 求める学生像

- ①情熱をもって音楽に取り組み、夢に向かって努力を惜しまない、学習意欲の旺盛な人
- ②これまで習ってきた楽器の演奏法を専門的に深めたいと思っている人
- ③高校で合唱や吹奏楽、管弦楽などを経験、音楽の素晴らしさを体感し自分の歌唱や楽器の演奏法について更に追求したいと思っている人

### 教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)

音楽科は、建学の精神のもと社会において音楽芸術の発展に貢献できる人材、及び音楽療法士として医療福祉分野で活躍できる人材を育成することを教育目標としています。この目的を達成するために以下の項目を教育課程編成の方針としています。

1. 音楽通論、和声学、音楽史等理論系の科目の他、ソルフェージュや合唱、合奏の授業を通して総合力を高め、生涯音楽に関わる姿勢を養うためのカリキュラムを編成しています。
2. 専門的な演奏技術や豊かな表現力を習得できるよう、個人レッスンを中心とした専攻実技の科目を配置しています。
3. 音楽芸術を通して社会に貢献できる人材を育成するため、資格取得に必要な科目を配置しています。

### 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

音楽科所定の単位を修得し、以下の専門的知識・技能等を身に付けた学生に対して卒業を認定し、短期大学士(音楽)の学位を授与します。

1. 幅広い教養や音楽についての知識を習得している。
2. ピアノ、声楽、管弦楽器の専攻実技の基本的な演奏技術力と表現力を習得している。
3. 様々な授業や学修体験を通して豊かな人間性と生涯にわたって主体的に学び続ける意欲を身に付けている。

# 専攻科文化学専攻学科

## 入学者受入方針 (アドミッション ポリシー)

### 理 念

人間の生きた証である歴史や文化を体系的に学び、豊かな人間性を培い、幅広く多様な教養を身につけてもらいます。

### 教育目標

グローバル化する社会的・文化的状況の中で専門性の基礎・基本を重視しつつ、関連諸科学との関係、学問と個人の価値観、及び現実社会との関係を学びの中で考えてもらいます。

### 求める学生像

- ①短期大学あるいは高等専門学校で学んだ人で専門的な歴史や文化についての知識をもち、それを創造的に活用できる人。
- ②歴史や文化についての専門的知識を専門職の中で生かそうという意欲を持つ人。
- ③歴史や文化についての専門知識によって現実の諸問題を解決しようとする行動力をもつ人。